

インテリア用品のデザイン開発

小沢 三彦 加藤 勝正 板村 忠也

Design of Interior Goods

by

Mitsuhiko KOZAWA, Katsumasa KATO
and Chuya ITAMURA

自然志向、素材志向、和洋折衷志向など消費者ニーズの多様化を背景に、食卓を演出する品揃えの食器とインテリアを演出するグリーン（植物）の鉢カバーなどをデザイン・試作した。

なお、これらの使用素地は赤土系にし、この素材を活かすようブラストマシンによるレリーフ技法や失透釉、白半マット釉の新しい展開を図った。

1. まえがき

消費者ニーズは、高品質で使い勝手を十分配慮した商品への志向が高まっていると共に、ますます個性化、多様化する傾向にある。このような背景の中で、食器やその周辺のインテリア用品は、自然志向、素材志向、和洋折衷志向など多様化を考慮した商品が期待される。

このため、デザインの方針はこれらの背景を基に、食卓を演出する品揃えの食器とインテリアを演出するグリーン（植物）の鉢カバーに焦点を絞った。これらの使用素地は赤土系にし、この素材を活かすようブラストマシンによるレリーフ技法や失透釉、白半マット釉の新しい展開を工夫した。

2. 素地・釉薬の検討

型起こし・ろくろ成形用坯土は、赤8号土（組合配合土）70%、白5号土（組合配合土）30%、鑄込成形用は赤8号土60%、河合陶石40%、炭酸バリウム0.05%調合の赤土系素地が成形性、発色ともに良好であった。

釉薬は1135℃150分保持による焼成で、失透釉、半マット釉を各種試験検討した結果、表1の調査を得た。このうち、No.5916, 5944, 5950, 59131, 59162を試作品に活用した。

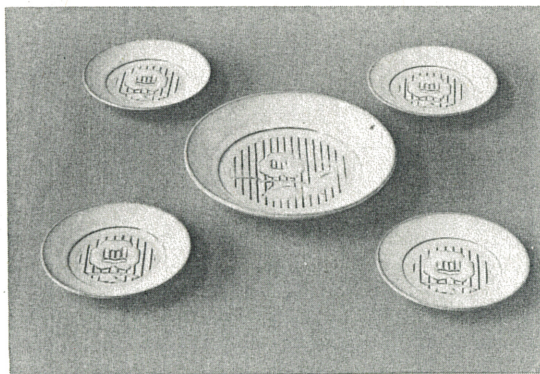
3. 試作品

試作品は鑄込成形による洋風的な使い勝手のデザートセット他1案、型起こし成形による土味を

活かしたカジュアルセット他2案、ろくろ成形による深鉢他1案、加えて、上下兼用でビスク仕上げによるグリーンの鉢カバー2案である。

3.1 デザートセット

朝食時に果物を食べるのが、身体に良いとされている。このため、朝食のデザートに果物を盛る器として、新鮮さ、クールさを出すよう器の内部に椿のレリーフ柄を配し、これに失透釉を施して釉薬の「ぬげ」（凸部を透けさせる）効果によりまとめた。



- 寸法 盛皿：250φ×40mm、取皿：160φ×25mm
- 素地 赤土系炆器
- 製法 鑄込成形
- 加飾 椿のレリーフ柄
- 釉薬 ①白失透釉（No.5944）、②緑失透釉（No.59131）
- 焼成 電気炉 1135℃150分保持

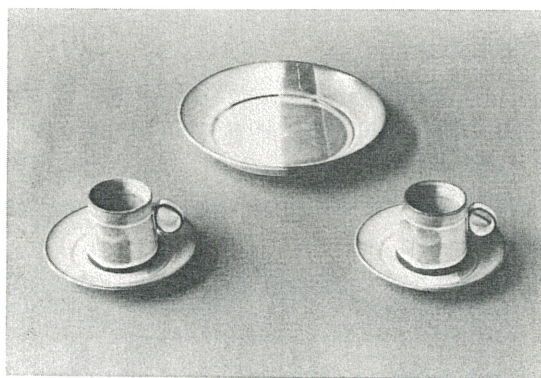
表1 釉薬調合割合

(重量%)

	No. 5914	No. 5916	No. 5917	No. 5944	No. 5950	No. 5993	No. 59119	No. 59131	No. 59157	No. 59162
無鉛フリット	14.1	14.7	27.1	15.0	10.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
福島長石	32.3	39.0	4.1	35.0	50.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
鼠石灰石	7.0	7.3	5.1	10.0	8.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
亜鉛華	3.3	3.5	3.2	6.0	7.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
炭酸バリウム	8.1	8.5	7.9	8.0	10.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
滑石	5.2	5.4	5.0	—	—	—	—	—	—	—
カオリン	9.9	1.8	20.5	6.0	5.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
珪石	15.1	19.8	27.1	20.0	10.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
天然土灰	10.0	10.0	—	—	—	—	—	—	—	—
酸化チタン	—	—	5.5	3.0	—	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
合成ワラ灰	—	—	—	5.0	—	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
酸化銅	—	—	—	—	—	1.0	—	0.5	0.15	—
M-142 グリーン	—	—	—	—	—	3.0	—	—	—	—
酸化ルチール	—	—	—	—	—	—	0.5	—	—	—
M-600 濃黄	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5	0.6
色調	白半 マット	白半 マット	白失透	白失透	透明	緑失透	クリーム 失透	緑失透	黄緑失透	クリーム 失透

3.2 ホームセット

菓子類を大皿に盛り、これを囲みながら、コーヒーを飲む使い勝手であるが、器による雰囲気づくりを考慮して、加飾は白失透釉と素地色が出る白半マット釉を二重掛けにし、大胆なイメージに仕上げた。



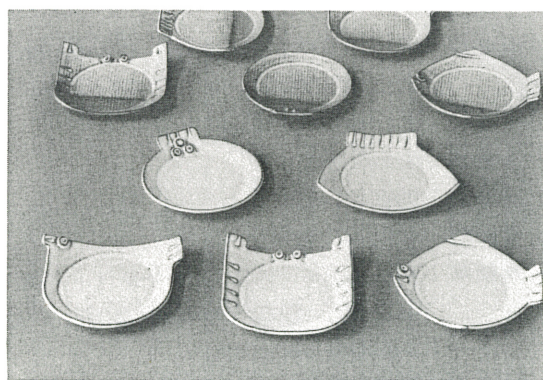
- 寸法 盛皿：250φ×40mm，カップ：75φ×80mm，ソーサー：160φ×25mm
- 素地 赤土系炻器
- 製法 鋳込成形
- 加飾 二重掛け
- 釉薬 白失透釉 (No.5944)・白半マット釉

(No.5916)

- 焼成 電気炉 1135℃150分保持

3.3 小皿・海の幸

健康に対する願望や自然志向に関係あるものを商品化する場合が多くなってきている。この小皿は海に住む魚貝類をテーマにし、シンプルな形状の中に、具象的な楽しさやクラフト的な土味を配慮した。



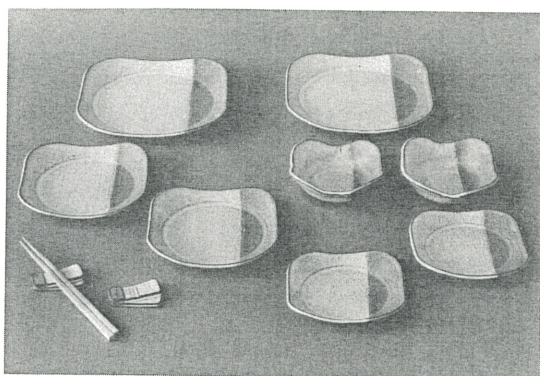
- 寸法 タコ：155×140×20mm，フグ：135×150×20mm，カイ：145×165×20mm，カニ：140×145×20mm，サカナ：155×165×20mm

- 素地 赤土系炻器
- 製法 型起こし成形
- 加飾 ①網目, ②網目・二重掛け
- 釉薬 ①白失透釉 (No.5944), ②白失透釉・白半マット釉 (No.5916)
- 焼成 電気炉 1135℃150 分保持

3.4 カジュアルセット

和食を洋食器で食べたり, また, この逆の洋食に和食器を利用したりする場合がある。これはマンネリ化する食事に, 少しでも変化をつけるための演出効果として行なわれている。

これらを背景に, 和食でも, 洋食でも使用できる和洋折衷的な使い勝手を意図した。この品種は大皿, 中皿, 小皿, 小鉢, 箸置で, 形状は丸味のある角形にした。この使い方は, 大皿に副食, 中皿にライス, 箸置のセット, また, 大皿に副食, 小皿にパン, そして小鉢にサラダなどが演出できる。



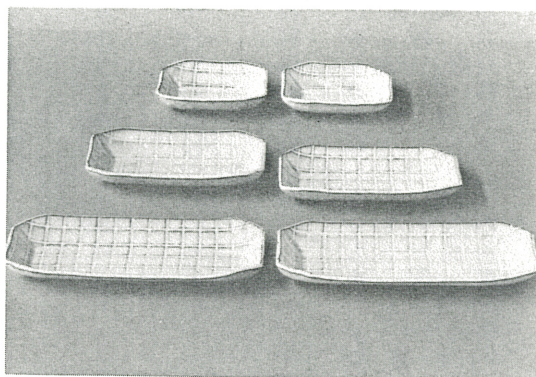
- 寸法 大皿: 220×30 mm, 中皿: 170×26 mm, 小皿: 140×24 mm, 小鉢: 125×55 mm, 箸置: 60×25×10 mm
- 素地 赤土系炻器
- 製法 型起こし成形
- 加飾 網目・二重掛け
- 釉薬 ①白失透釉 (No.5944)・白半マット釉 (No.5916), ②緑失透釉 (No.59131), クリーム失透釉 (No.59162)
- 焼成 電気炉 1135℃150 分保持

3.5 長浅鉢大中小

大皿に盛って食事をするバイキング方式は一般的になっているが, この場合, 2, 3種の料理を盛る時や他の器を併用して食卓を演出する時, 離

れた料理を取るのに不便が生じる。

このため, 器を長くして, どこからでも容易に取れるような形状を考慮し, 器を長く深めにした。また, 成形を型起こしにして, ハンドメイドの味を出し, 内部のレリーフを格子柄にした。

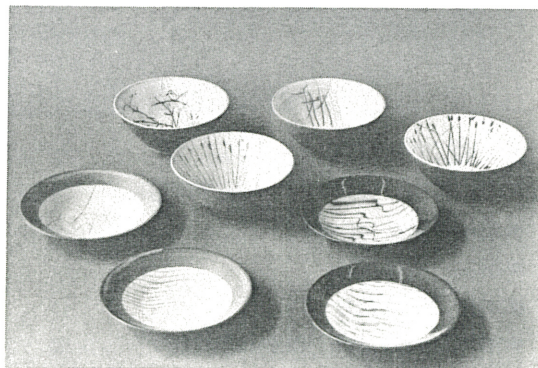


- 寸法 大: 115×320×35 mm, 中: 115×240×35 mm, 小: 115×60×35 mm
- 素地 赤土系炻器
- 製法 型起こし成形
- 加飾 網目・格子のレリーフ柄
- 釉薬 ①白失透釉 (No.5944), ②緑失透釉 (No.59131), ③クリーム失透釉 (No.59162)
- 焼成 電気炉 1135℃150 分保持

3.6 深皿, 深鉢

陶磁器製品にもハイテクな感覚なものが市場に出ている半面, 何か工芸的な要素を取り入れたものも好まれている。

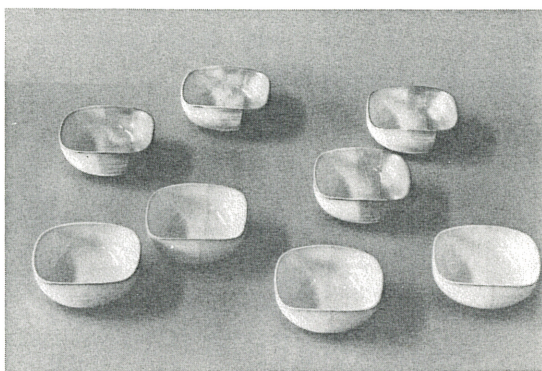
この試作は, 白化粧土を部分的に施して, 素地色との対比及び各種の掻き取り柄で仕上げた。この掻き取り柄はフリーハンドによる自然な線にし線の強弱, 太い細いなど抑揚のある筆力表現にとめた。



- 寸法 深皿：200 ϕ ×40 mm, 深鉢：180 ϕ ×75 mm
- 素地 赤土系炻器
- 製法 ろくろ成形
- 加飾 白化粧土・掻き取り柄
- 釉薬 ①透明釉 (No.5950), ②白半マット釉 (No.5916)
- 焼成 電気炉 1135℃150 分保持

3.7 角小鉢

施釉方法は緑失透釉とクリーム失透釉及び、白失透釉と白半マット釉を真中で掛け合わせたもので、配色と肌合いの効果をねらった。この色彩はソフトなもので、若い人や女性をターゲットにした。



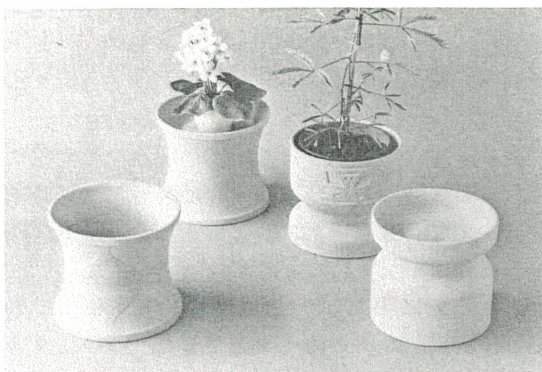
- 寸法 130×55 mm
- 素地 赤土系炻器
- 製法 ろくろ成形
- 加飾 二重掛け
- 釉薬 ①緑失透釉 (No.59131)・クリーム失透釉 (No.59162), ②白失透釉 (No.5944)・白半マット釉 (No.5916)
- 焼成 電気炉 1135℃150 分保持

3.8 兼用鉢カバー A, B

最近、グリーンをインテリアの装飾として活用するのは一般化してきている。しかし、居間や玄関に各種のグリーンが雑然と置かれる場合が多々ある。このため、鉢カバーにより、統一感を持たせ、インテリアの演出効果を倍加させる意図でデザインした。

使い勝手はフレキシブルに使えるよう、上部を乗せ台、下部をカバーにして上下兼用にした。そして、形状は上下のバランスを配慮し、シンプルな曲線でまとめた。

また、仕上げは赤味を帯びたビスクにし、加飾はブラストマシンによる梨地のものと、幾何、具象柄のレリーフによるものを実施した。



- 寸法 A：190 ϕ ×170 mm, B：175 ϕ ×170 mm
- 素地 赤土系陶器
- 製法 鋳込成形
- 加飾 ①梨地仕上げ, ②-A蝶のレリーフ柄・②-B幾何のレリーフ柄
- 焼成 電気炉 1050℃150 分保持

3.9 鉢カバー大小

この試作は、量産品を前提にしたもので、生産工程の乾燥、施釉、焼成段階でスタッキング可能な形状にした。また、加飾はブラストマシンによるものと、白・茶の化粧土活用したものを実施した。



- 寸法 大：175 ϕ ×130 mm, 小：145 ϕ ×110 mm
- 素地 赤土系陶器
- 製法 鋳込成形
- 加飾 ①端部梨地仕上げ, ②金魚のレリーフ柄, ③端部に化粧土塗布
- 焼成 電気炉 1050℃150 分保持